

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版) 名古屋環境研究所環境性能評価センター | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市立 救急・災害医療センター(仮称)新築工事	階数	地下1階、地上8階
建設地	名古屋市中区瑞穂区瑞穂町字川邊1番地1-1、1-2	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	1,506 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定	評価の実施日	2022年7月28日
敷地面積	(仮想敷地) 11326.2 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	5,275 m <sup>2</sup>	確認日	2022年7月28日
延床面積	29,859 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE1.3** ★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 94%  
③上記+②以外の 94%  
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ①斬らない敷地を実現する直結動線と大容量平面 ②災害時においても、日常の延長として活動可能な災害対応力の高い「さくらひろば(仮称)」と救急・災害医療センター ③「救急・災害医療人の育成」(上質な医療提供体制構築)のために安全と信頼をほくむ空間の実現		その他
<b>Q1 室内環境</b> 遮音、温熱環境、光・視環境、空気質環境に配慮し、快適な空間を計画	<b>Q2 サービス性能</b> 機能性、耐用性・信頼性、対応性・更新性に配慮し、維持管理しやすい施設を計画	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 「さくらひろば(仮称)」と一体的に利用できる多目的室、プロムナードやコネクティングホール等公共的機能を計画
<b>LR1 エネルギー</b> 効率の良い設備計画により省エネ化を図る	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水対策やエコマテリアル、有害物質を含まない建材を選定	<b>LR3 敷地外環境</b> 汚水や交通等周囲への負荷を抑えた計画

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

名市大病院 救急・災害医療センター(仮称)新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.1</b>
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.5</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

## 結果

### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.1



### 2. 自然共生

評価点 = 2.3



### 3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。